

(ウ) 秩父まるごとジオパークの推進

○現況と課題○

ジオパークとは、地域固有の地質や地理、生態系、歴史・文化などありのままの地域資源を素材として整備された「地球と人間のかかわり」を主題とする大地の公園です。令和元年現在、国内では44の圏域が日本ジオパークとして、その内9地域が、世界ジオパークとして認定されています。



秩父地域は、日本地質学発祥の地として近代地質学の発展に寄与した地であり、日本列島形成の歴史を今に伝える貴重な地質資源を多く有することの他にも、大地の成り立ちが固有の生態系を形成し、そこに住む人々が独自の歴史・文化・産業を生み出した、多様性ある魅力的なジオパークとして確立しています。

ジオパークの活動を秩父で推進するため、平成22年2月に「秩父まるごとジオパーク推進協議会」が設立され、平成23年9月5日には日本ジオパーク委員会から「日本ジオパーク」の認定を受けました。また、平成27年12月14日には4年に1度の再認定審査を受け、ジオパーク活動の地域での広がりが評価され再認定となりました。さらに、平成28年3月には、秩父盆地が海だった記憶を残す地層を観察できる6つの露頭と9つの化石群が国の天然記念物に指定されたことも、ジオパーク秩父の大きなトピックスの1つになりました。今後も、構成団体である1市4町や埼玉県、NPO、民間団体・企業とが連携し、さらなる広域的な展開と普及啓発が望まれています。

○今後の展望○

引き続き、地域内外の多くの方々へのジオパーク活動の普及啓発を主眼として、学習観光の誘致及び実施を行い、令和元年に刷新したホームページやパンフレット、SNSなどの各種PR媒体を活用しながら、一般市民への普及啓発を積極的に推進します。

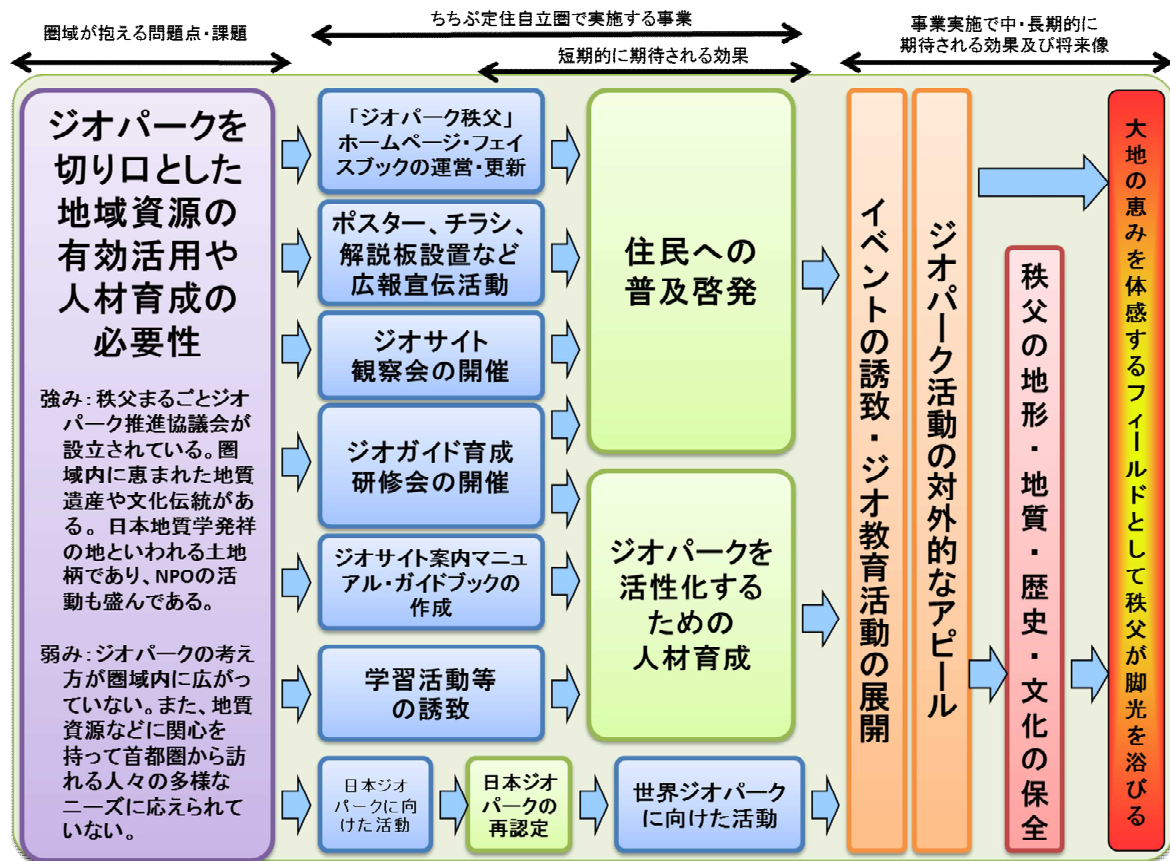
事務局体制については、ジオパークエリアと同じ1市4町のエリアを包括する（一社）秩父地域おもてなし観光公社に引き続き事務局を置き、同社が展開する広域的な観光事業との連携を図ります。また、令和元年秋の2度目となる再認定審査の結果を踏まえ、今後も日本ジオパーク認定を継続するための確実な対応を行っていきます。

ジオサイトの現状把握と保全の面では、天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」保存活用計画との整合性をとりながら、ジオパーク秩父の保全活用計画の策定を目指します。さらに、必要に応じて現地看板の更新やサイト整備、拠点施設の充実を図ります。

また、令和元年6月、秩父市と小鹿野町が「甲武信ユネスコエコパーク」の登録を受けたことから、今後、ジオパークとエコパークに共通する機能・定義である「経済と社会の発展」の推進に向けてそれぞれの活動が効果的に発揮されるためにも、両パークが連携した取組みを展開していきます。

引き続き、着実に依頼数が伸びているガイドツアーの受け入れについても積極的に行いながら、地域内外の学校教育活動及び地元コミュニティや公民館における生涯学習活動などにも積極的に協力していくほか、構成団体や関係者と連携して包括的なガイド養成事業を展開します。

○戦略図○



○主要事業○

定住自立圏形成協定で締結した内容に基づき、以下の主要事業を実施します。

【形成協定】

(ウ) 秩父まるとジオパークの推進

秩父の地質資源などを活かして秩父まるとジオパーク構想を推進するために、ジオパークを活用した関連事業について、秩父まるとジオパーク推進協議会を設置してジオパーク推進計画（仮称）を策定する。また、ジオサイトを結ぶ散策コースの設定などジオツーリズムの整備を行う。

○取組の成果指標○

指標 1	ジオツアー開催数（ジオガイド含）				
	R2	R3	R4	R5	R6
目標	20 回	20 回	20 回	20 回	20 回
実績					
指標 2	子どもを対象としたジオパーク学習回数				
	R2	R3	R4	R5	R6
目標	12 回	12 回	12 回	12 回	12 回
実績					

① 「秩父まるとジオパーク」の普及啓発

事業名	ジオパーク秩父普及啓発・情報発信				39	関係市町名
事業概要	秩父まるとジオパークの活動を地域内外へ広く発信するために、ホームページや SNS の管理・更新やポスター、チラシ、ガイドブック、パンフレット等の作成、またジオパークの拠点施設の内容充実を図る。 さらに、ジオサイトの案内看板、ジオサイトの解説板の作成やジオサイトのハード整備を行う。 ※事務局費を含む。					秩父市（観光課、教育委員会） 皆野町（産業観光課、教育委員会） 長瀬町（産業観光課、教育委員会） 小鹿野町（おもてなし課、教育委員会）
成果	秩父地域の住民及びジオパーク秩父への学習観光者に対し、ジオパークの活動を周知するとともに、楽しく学ぶツールとしての活用が期待できる。					
関係市町の役割分担	秩父市及び各町は、事務局である秩父地域おもてなし観光公社とともに、企画立案を行い事業を推進する。事業は秩父まるとジオパーク推進協議会にて決定する。					
事業費 (千円)	R2	R3	R4	R5	R6	計
	1,958	1,400	1,400	1,4000	1,400	7,558
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし					
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
	R2	R3	R4	R5	R6	計
市負担額	1,054	914	914	914	914	4,710
各町負担額	226	162	162	162	162	874
※各町負担額は皆野町、長瀬町、小鹿野町の3町が負担する。						

事業名	ジオサイト観察会の開催				40	関係市町名	
事業概要	住民及び学習観光者への普及啓発を主眼としてジオサイト観察会（ジオツアー）を随時開催する。 特に、秩父ならではの地域資源・観光資源を活かし、ジオパークと連携した事業を展開する。					秩父市（観光課、教育委員会）	
						皆野町（産業観光課、教育委員会）	
						長瀬町（産業観光課、教育委員会）	
	小鹿野町（おもてなし課、教育委員会）						
成果	秩父圏域の住民及び学習観光者に対し、ジオパークの活動を周知し、魅力を発信することが期待できる。						
関係市町の役割分担		秩父市及び各町は、事務局である秩父地域おもてなし観光公社とともに、企画立案を行い事業を推進する。事業は秩父まるごとジオパーク推進協議会にて決定する。					
事業費 (千円)	R2 300	R3 300	R4 300	R5 300	R6 300	計 1,500	
国県補助事業等の名称・補助率等			該当なし				
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
	R2	R3	R4	R5	R6	計	
市負担額	195	195	195	195	195	975	
各町負担額	35	35	35	35	35	175	
※各町負担額は皆野町、長瀬町、小鹿野町の3町が負担する。							

② 「秩父まるごとジオパーク」を推進するための人材育成

事業名	ジオガイド育成研修会の開催				41	関係市町名
事業概要	ジオパークの活動に関心のある地域住民や既存の観光ガイド養成講座等を受講した地域住民などを対象として、ガイド養成研修会及び講演会を実施する。 具体的には、ジオサイト観察会等の企画段階で、ジオパーク秩父上席推進員の助言を得ながら、実地研修などを実施する。					秩父市（観光課、教育委員会） 皆野町（産業観光課、教育委員会） 長瀬町（産業観光課、教育委員会） 小鹿野町（おもてなし課、教育委員会）
成果	秩父地域のジオ的な資源を語ることができる人材を育成することで、地域に愛着を持ち、後世に秩父地域の素晴らしさを伝え、資源を保全していくことができる。 また、訪れた方と、地元の方々の交流による新しいツーリズムの形を構築できる。					
関係市町の役割分担	秩父市は、専門的な知識を有するジオパーク秩父上席推進員を推薦（協議会で雇用）し、地域住民に対するガイド養成を行う。各町はこの活動に協力する。					
事業費 (千円)	R2	R3	R4	R5	R6	計
	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	11,000
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
	R2	R3	R4	R5	R6	計
市負担額	1,438	1,438	1,438	1,438	1,438	7,190
各町負担額	254	254	254	254	254	1,270
※各町負担額は皆野町、長瀬町、小鹿野町の3町が負担する。						

③ 「秩父まるごとジオパーク」の圏域外へのアピール

事業名	世界ジオパーク認定に向けた活動				42	関係市町名
事業概要	将来的に世界ジオパークの認定を目指し、求められる諸条件や必要な整備内容について調査・研究を行う。さらに、インバウンド対応を推進し、ツアー検証や各媒体の多言語化対応等を通じて受け入れ態勢の確立を目指す。					秩父市（観光課、教育委員会） 皆野町（産業観光課、教育委員会） 長瀬町（産業観光課、教育委員会） 小鹿野町（おもてなし課、教育委員会）
成果	世界ジオパークの認定により、圏域内のジオパーク活動がさらに促進され、国内はもとより世界に向け大きくアピールできる。					
関係市町の役割分担	秩父市及び各町は関係機関との調整を行う。また、事業方針は秩父まるごとジオパーク推進協議会にて決定する。					
事業費 (千円)	R2 200 の内数	R3 200 の内数	R4 200 の内数	R5 200 の内数	R6 200 の内数	計 1,000 の内数
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
	R2	R3	R4	R5	R6	計
市負担額	131	131	131	131	131	655
各町負担額	23	23	23	23	23	115
※各町負担額は皆野町、長瀬町、小鹿野町の3町が負担する。						

事業名	学習活動等の誘致（自治体連携事業）				43	関係市町名
事業概要	環境・体験・交流に関する誘客促進事業として、積極的に地元地域や首都圏の小学校・中学校・高等学校、教育旅行関連企業等に働きかけ、学習活動をジオパーク秩父で行うよう誘致活動を行う。					秩父市（観光課、教育委員会） 皆野町（産業観光課、教育委員会） 長瀬町（産業観光課、教育委員会） 小鹿野町（おもてなし課、教育委員会）
成果	秩父の魅力を学習し、ジオパークの活動を周知することが期待できる。					
関係市町の役割分担	秩父市及び各町は、事務局である秩父地域おもてなし観光公社とともに、企画立案を行い事業を推進する。事業は秩父まるとジオパーク推進協議会にて決定する。					
事業費 (千円)	R2 200 の内数	R3 200 の内数	R4 200 の内数	R5 200 の内数	R6 200 の内数	計 1,000 の内数
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
	R2	R3	R4	R5	R6	計
市負担額	131	131	131	131	131	655
各町負担額	23	23	23	23	23	115
※各町負担額は皆野町、長瀬町、小鹿野町の3町が負担する。						

○今後の想定される事業○

①「秩父まるとジオパーク」の普及啓発

・PR活動の推進

令和元年5月に大規模リニューアルを図った新ホームページのさらなる充実を図り、パンフレット等刊行物、SNSの活用、TV等各メディアへの情報提供等を通じて、ジオストーリーに基づいたPR活動を展開し、地域内外へ幅広く普及・啓発を行う。

・構成団体及び関係者、民間事業者との連携

事務局が中心となり、各構成団体が実施するジオパーク秩父関連事業との調整・協力体制を敷く。民間事業者のうち、眺望サイト「三峰口の白川橋」付近で展開するアクティビティ施設「秩父ジオグラビティパーク」については、ジオパーク秩父を全身で体感できる新たな拠点として捉え、地元である秩父市及び運営事業者との協力・連携体制を確立し、周辺地域の活性化を推進していく。

- ・保全活用計画の策定

企画・運営部会を主体として、天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」保存活用計画との整合性をとりながら、「ジオパーク秩父保全活用計画（仮）」の策定を目指す。

- ・サイト・拠点施設の整備

サイトの日常的な現状把握と管理、保全を行い、案内看板やサイト周辺整備、拠点施設の展示内容について定期的な更新と充実を図る。

②「秩父まるごとジオパーク」を推進するための人材育成

- ・ガイド養成事業の推進

協議会の構成団体やNPO法人が主催するジオツアーが持続可能な事業として実施できるよう包括的なガイド養成事業を展開するに伴い、「ジオパーク秩父公式テキスト」を作成し、広く活用していくほか、多様なニーズに対応可能なガイド体制を確立する。

- ・教育活動の推進

地域内外の学校への出前授業や校外学習などの学校教育活動、町会活動及び「ちちぶ学セミナー」などの生涯学習活動を積極的に推進する。また、小学校副読本などの学校教材においてジオパーク秩父が取り上げられるよう、各市・町教育委員会への働きかけと協力を行っていく。

③「秩父まるごとジオパーク」の圏域外へのアピール

- ・外国人旅行者の受け入れ

インバウンド対応を推進するため、検証ツアー事業、各PR媒体の多言語化を推進するほか、旅行会社へのPR及び外国人向け通訳付きガイドツアーの受け入れ体制の確立を目指す。

- ・日本ジオパークネットワークへの貢献

日本ジオパークネットワーク（JGN）の主催する会議や研修会、大会等に積極的に参加し、他地域のジオパークとの相互連携と情報共有を図り、国内外のジオパーク活動の普及啓発を担う。